

学生の確保の見通し等を記載した書類（本文）

目次

（１）収容定員を変更（増加）する組織の概要	・ ・ ・ p. 2
①収容定員を変更（増加）する組織の概要（名称、入学定員、 収容定員、所在地）	・ ・ ・ p. 2
②収容定員を変更（増加）する組織の特色	・ ・ ・ p. 2
（２）人材需要の社会的な動向等	・ ・ ・ p. 2
①収容定員を変更（増加）する組織で養成する人材の全国的、 地域的、社会的動向の分析	・ ・ ・ p. 2
②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向 の分析	・ ・ ・ p. 3
③収容定員を変更（増加）する組織の主な学生募集地域	・ ・ ・ p. 3
④既設組織の定員充足の状況	・ ・ ・ p. 4
（３）学生確保の見通し	・ ・ ・ p. 5
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	・ ・ ・ p. 5
②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の 類似性と定員充足状況）	・ ・ ・ p. 8
③先行事例分析	・ ・ ・ p. 11
④学生確保に関するアンケート調査	・ ・ ・ p. 11
⑤人材需要に関するアンケート調査等	・ ・ ・ p. 11
（４）収容定員を変更（増加）する組織の定員設定の理由	・ ・ ・ p. 12

（１）収容定員を変更する組織の概要

①収容定員を変更（増加）する組織の概要（名称、入学定員、収容定員、所在地）

組 織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地
崇城大学 芸術学部美術学科	40	—	160	熊本県熊本市西区 池田 4 丁目 22 番 1 号
崇城大学 情報学部情報学科	150	—	600	熊本県熊本市西区 池田 4 丁目 22 番 1 号

②収容定員を変更（増加）する組織の特色

<美術学科>

学位の分野：美術関係

複雑な情報社会である現代社会において、自然界の森羅万象を成り立たせている本質と仕組み、現象を主観と客観のバランスを保ちながら観察し、かつ感覚的にとらえ表現へと昇華させる感性豊かな人材を育成すること、ならびに、デジタル情報化社会に相応しい表現のあり方を模索し、基礎造形力と伝統的な美術の学びを土台にした新しい表現への挑戦を担うことができる豊かな表現力を持った人材を育成することを、教育研究上の目的とする。それを通じて、現代社会において知性と感性を再統合することを目指す。

<情報学科>

学位の分野：工学関係

（１）人工知能・マルチメディア・プログラミング・情報通信ネットワーク・電子デバイス分野における最新の情報技術を支える人材、（２）優れた論理的思考力とコミュニケーション能力によって情報技術社会を発展させる人材、（３）豊かな人間性・社会性を備え、しなやかな知識を活かして、地域や社会の問題解決に応用できる人材を育成することを教育研究上の目的とする。

（２）人材需要の社会的な動向等

①収容定員を変更（増加）する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

<美術学科>

熊本県をはじめ九州各県から意欲ある受験生が多数集まっており、近年高い入学定員充足率を維持している。2023 年度には熊本県立高森高等学校に全国初の「マンガ学科」が新設され、美術・マンガ表現に特化した専門的な教育を受ける生徒が増加している。また、全国的にもマンガ・アニメ・デジタルアート分野への関心が高まり、これらに関連する文化産業において専門的人材の育成が社会的に強く求められている。本学科の定員拡充は、地域および社会全体における創造的人材の需要に応えるものであり、教育の質を担保した教員体

制・施設整備のもとで実施することにより、文化産業の発展および地域振興に資するものである。

＜情報学科＞

九州、とりわけ熊本県における半導体産業の急成長は著しく、TSMC の進出を契機として設備投資が相次いでおり、2030 年までに累計投資額は 11 兆円を超える見込みである。これに伴い、情報・半導体分野の技術者が年間 1,000 人規模で不足するとの調査結果もあり、電気・電子分野に加えて情報系の専門人材に対する需要が急速に高まっている。熊本県においても「くまもとサイエンスパーク構想」を掲げ、大学を中核とした人材育成を推進しているところであり、本学情報学部の実員増は、こうした地域的かつ国家的課題に的確に応えるものである。

②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

＜美術学科＞

地域に根ざし、専門性と実践力を備えた人材育成に注力している。全国的な少子化の影響で 18 歳人口は減少しているが、熊本県立高森高等学校マンガ学科の設置などにより美術系進学希望者は増加傾向にある。また、社会人入学者や外国人留学生の増加により、多様な志願者層が拡大している。現状の入学定員 30 名ではこうした需要に十分対応できず、入学定員を 40 名に増やすことで、18 歳人口減少を補いつつ多様な学生を受け入れることが可能である。充実した教育環境と教員体制の整備により、高い教育の質を維持しながら、地域社会や文化産業の発展に貢献できる。

＜情報学科＞

熊本県においては、TSMC をはじめとする半導体関連企業の進出により、産業界における人材需要は急速に拡大している。人口減少下においても、産業構造の変化に対応し得る高度情報人材の育成は、地域経済の持続的成長に不可欠である。情報学科は、AI・IoT・半導体関連技術を学際的に修得可能なカリキュラムを有し、実践的かつ地域密着型の人材育成を行っている。熊本県内出身学生の地元志向も強く、定員増による人材輩出は、地元企業への供給強化と定着促進に直結するものである。よって情報学科の実員増は、人口動態に逆行するのではなく、地域社会と産業界の実需に応える戦略的措置であり、学術的・社会的にも極めて意義深いものである。

③収容定員を変更（増加）する組織の主な学生募集地域

＜美術学科＞

本学美術学科における志願者数は、2021 年度以降増加傾向にあり、2024 年度には 183 名のピークを迎えた。2025 年度は競争率上昇の反動により減少したが、2026 年度には回復し、

再び増加することが予測される。特に熊本県からの志願者・入学者数が圧倒的に多く、地域の主要な供給源として安定的な役割を果たしている。2026 年度には、熊本県内の高森高等学校マンガ学科の第一期生卒業に伴い、新たに約 10 名の志願者が加わる見込みであり、同県からの志願者数は約 95 名と予測される。加えて福岡県、鹿児島県、佐賀県、宮崎県、長崎県など九州全域からの志願者も安定的に確保されている。特に福岡県と鹿児島県はそれぞれ 16 名、14 名程度の志願者が見込まれ、地域的な分散によって募集リスクの低減に寄与している。過去 5 年間の平均志願者数は 129 名であり、2026 年度は高森高等学校からの進学者増加も含め 146 名と回復を見込んでいる。これらのデータは、本学美術学科の学生募集地域設定が広域的かつ多様な供給源を持ち、安定的な学生確保が可能であることを示している。【資料 1】

＜情報学科＞

本学情報学部においては、過去 5 年間の志願・入学実績に基づき、熊本県を中心としつつ、福岡県・鹿児島県・宮崎県など周辺県からも安定的に学生を受け入れている。これらの実績は、今後の定員増に対しても持続的に学生を確保し得る体制が整っていることを示すものである。特に熊本県からは、過去 5 年間で平均 512 名の志願者、110 名の入学者を記録しており、最も安定した供給源である。加えて、県内出身者の地元志向が強いことから、今後も継続的な志願・入学が期待できる。また、福岡県（平均 63 名志願）、鹿児島県（平均 72 名志願）、宮崎県（平均 56 名志願）等、周辺の複数県からも中規模の志願者数が見込まれており、地域的な分散性が確保されている。これにより、特定の地域に過度に依存することなく、広域的な学生募集が実現している。【資料 1】

④既設組織の定員充足の状況

1. 総合的な傾向

直近 5 年間（2021 年度～2025 年度）における本学の入学定員充足率は、毎年 1.0 以上を維持しており、概ね良好な状態が続いている。具体的には、2021 年度が 1.02、2022 年度が 1.15、2023 年度が 1.18、2024 年度が 1.01、2025 年度が 1.06 と、安定した数値を示している。【資料 2】

2. 学部別の状況と見通し

(1) 工学部

機械工学科、ナノサイエンス学科、建築学科などの学科では、入学定員に対する充足率が 1.0 前後～1.3 程度で推移しており、安定した志願者数を維持している。一方で、宇宙航空システム工学科は 2024 年度が 0.76、2025 年度が 0.84 と、2 年連続で定員割れが生じている。今後もこの傾向が続くと考えられることから、志願者確保に向けた広報強化やカリキュラムの見直しを進めている。【資料 2】

(2) 情報学部

情報学科では、毎年志願者数が安定して多く、入学定員充足率も 1.09～1.33 と高い水準を保っている。2025 年度には 1.25 と、引き続き高い人気を維持している。ICT 人材の需要増加を背景に、今後も堅調な志願状況が続くと予測される。【資料 2】

(3) 生物生命学部

生物生命学科は 2022 年度に応用微生物工学科と応用生命科学科を改組する形で新設した学科であるが、志願者が減少傾向にあり、直近 2 年は入学定員を充足していない。志願者確保に向けた広報強化やカリキュラム見直しの検討を行っているものの、今後の定員確保の見通しも厳しい状況が予想されることから、今回の入学定員減に至った。【資料 2】

(4) 芸術学部

美術学科・デザイン学科ともに定員に対する志願者数が多く、入学定員充足率は 1.0～1.3 程度と高水準である。2025 年度においても、美術学科が 1.23、デザイン学科が 1.18 と、引き続き安定した人気を集めている。芸術系分野への志向が一定層に存在することから、今後も安定的な志願が見込まれる。【資料 2】

(5) 薬学部

薬学科は毎年ほぼ定員どおりの入学者数を確保しており、入学定員充足率は 1.03～1.17 と安定している。6 年制学科であるため、志願動向の変化には時間を要するが、今後も安定した充足が期待される。【資料 2】

3. 今後の定員充足の見通し

本学は、学部・学科ごとのばらつきはあるものの、全体では定員充足率が 1.0 以上で推移しており、今後も安定的な入学者確保が見込まれる。しかしながら、少子化の進行により大学間競争は年々激化しており、特定の学科（特に宇宙航空システム工学科など）における定員割れは今後のリスク要因となる。

(3) 学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

本学では、入試広報部を中心に、以下の学生募集活動を行っている。

- ・特待生制度（ミライク）

本学は九州圏から優秀な人材を輩出することが、九州はもとより我が国に貢献することと考えている。そのためにも、現在の景気状況下で、大きく伸びる素地があるにもかかわらず大学進学を諦めざるを得ない、保護者に負担を掛けることが心苦しく大学進学という選択肢を自ら放棄するような若者が少しでも減少することを願っている。力と志のある若者が大学に進学し、有為な人材となることを祈念し、「未来人育成特待生制度（通称ミライク）」を設置した。ミライクには、授業料の全学が免除されるミライクプレミアム、国公立大学並みの授業料である年額 50 万円となるミライク 50 があり、本学を志願する動機付けとして有効に作用している。

- ・オープンキャンパスの開催

全学的なオープンキャンパスを年に 3 回開催し、学科体験プログラムやキャンパスツアー、保護者向けガイダンスなどを実施して、多くの高校生や保護者に参加いただいている。プログラムの一部や学内の案内は学生スタッフ「SAGAS（サガス）」が行い、高校生に近い視点で案内やアドバイスを行うことにより、来場者からの反応も良好である。

- ・芸術学部および宇宙航空システム工学科における体験会、施設見学の実施

芸術学部（美術学科、デザイン学科）および宇宙航空システム工学科は、擁する大学が比較的少数であり、現地に来て、かつ体験してみないとその魅力や相性を理解することは難しい。したがって、本学では、体験会や施設見学会などを開催することにより、入学の促進を図るほか、ミスマッチを予防する取組のひとつとしている。

- ・教員による出張講義等の実施

高校等からの依頼を受け、本学教員による出張講義を実施している。高大連携として、高校生が大学の講義スタイルおよび本学の教育研究に触れる機会となっているのと同時に、高校教諭に対しても本学の特色等をアピールする機会となっている。

- ・高校訪問を行う入試アドバイザーの配置

九州・沖縄各県に入試アドバイザー 9 名を配置しており、入試アドバイザーが各担当地域の高校を訪問し、高校教諭に対して本学の教育研究の紹介や、入試制度、出身者の入学後の様子などを伝え、本学の知名度を上げると同時に、情報共有の機会にもなっている。

- ・ユーザビリティを意識したスマートフォン対応のホームページ

現在、高校生が情報収集を行うデバイスとしては、パソコンよりもスマートフォンが主流になっている。大学ホームページや入試サイトをスマートフォン対応の WEB 構成とし、高校生の情報収集が円滑に行えるように工夫している。また、高校生や保護者へ、大

学公式のプッシュ通知への登録や、本学公式 LINE への登録を促しており、入試やイベントの最新情報を配信している。

イ 収容定員を変更（増加）する組織における取組とその目標

芸術学部および情報学部は入学定員に対して志願者数が多い状況が続いており、（３）①ア「既設組織における取組とその目標」で説明したこれまでの取組をもとに、学生募集のための PR 活動を行う。

<美術学科>

美術学科においては、募集・入学試験からコースに分かれるため、オープンキャンパスにおいてコース別の体験講習を設けており、ミスマッチを予防する取組としている。また、高校 3 年生・受験生を対象として芸術学部実技選抜対策デッサン講習会を開催することにより、試験問題に沿ったテーマのデッサン課題について、芸術学部教員の指導を直接受けられるプログラムを設けており、試験対策や入学の促進に繋げることを目標としている。さらに、熊本県、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県などの高校からの依頼を受け、本学教員による出張講義を実施している。デッサン講習やコースに特化した講義を実施することで、高校生が本学の教育研究に触れる機会となっているのと同時に、高校教諭に対しても本学の特色等をアピールする機会となっている。

近年の取組としては、芸術学部独自のインスタグラムを開設し、芸術学部の日常や授業風景、課題、学生の作品、展覧会の案内など、芸術学部の情報をリアルタイムで発信している。また、九州には芸術系の大学が少ないため、九州各県（福岡、熊本、宮崎、沖縄など）の芸術系進学ガイダンスに参加し、地元の芸術系大学としての存在感をアピールしている。【資料 3】

<情報学科>

株式会社フロムページが提供する、大学で学ぶ学問を発見するための講義動画サービス「夢ナビ講義 VIDEO」において、情報学科の教員 5 名が高校生向けの講義動画を公開しており、高校生に本学の教育研究の魅力を伝えている。また、熊本県、福岡県、佐賀県などの高校からの依頼を受け、本学教員による出張講義も実施している。さらに、大学訪問も積極的に受け入れており、IoT・AI センターなどの最先端施設を見学して、メタバースや XR、e スポーツなどに特化した多様なスタジオを実際に体験してもらい、本学の教育研究施設の充実をアピールし、入学者の確保に繋げている。

新たな取組としては、情報学科を含めた理系学科において「次世代女子育成プログラム」を新設した。入学後は海外研修支援や特別セミナーなど多彩なプログラムを設けるなどして、理系分野での女性の活躍の支援を行うとともに、女子学生の確保に繋げることを目標としている。【資料 3】

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を変更（増加）する組織での入学者の見込み数

＜美術学科＞

美術学科においては、2022 年度のコース再編以降の志願者数が増加傾向にある。競争率上昇の反動により 2025 年度は志願者数がやや減少したものの、熊本県をはじめ九州各県から意欲ある受験生が多数集まっており、志願者数も高い水準を保っている。芸術系分野への志向が一定層に存在することから、今後も安定的な志願が見込まれるため、学生の確保を図ることができる見通しである。

＜情報学科＞

情報学科においては、直近 5 カ年の入学者数が変更後の入学定員 150 名を超えており、志願者数も高い水準を保っている。ICT 人材の需要増加を背景に、今後も堅調な志願状況が続くと予測され、今回の入学定員の変更により、中長期的に入学定員超過率 1.0 に近い適切な入学者数とする計画である。したがって、長期的かつ安定的に学生の確保を図ることができる見通しである。

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

＜美術学科＞

熊本県内には熊本大学教育学部に美術専攻があるものの、美術系学科を有する大学は本学のみで、県外の大学への進学を選ぶケースも多い。中でも九州産業大学芸術学部は、福岡という大都市圏に位置し、芸術系分野が充実している点で競合校といえる。多様な専攻分野を学べる点は本学と一部重なり、福岡県、熊本県、鹿児島県の受験生にとって併願しやすい環境であり、学費水準も本学と近いことから志望層も重なる傾向にある。

一方で、本学は工学系を基盤とする総合大学であり、美術とテクノロジーを融合した学際的な学びを提供できる点が大きな強みである。また、小規模で丁寧な教育体制を整えており、少人数制によって学生一人ひとりの個性を引き出す指導を実現している。さらに、熊本県を中心とした地域社会や企業との連携を通じて、実践的かつ地域貢献型の教育を展開している。経済的支援としては特待生制度「ミライク」を設け、九州圏内の優秀層の進学を積極的に後押ししている。

＜情報学科＞

福岡工業大学は私立の工業系単科大学であり、本学と同様に工学・情報技術分野に特化した教育を展開している。情報工学部の中でも特に情報工学科、情報通信工学科、情報マネジメント学科など、情報分野に多くの学科を有している点で競合性が高いといえる。定員につ

いては、本学情報学科と比較して規模は大きい、同一志望層（九州内理系・情報系志望者）を取り合う関係にある。AI・IoT、プログラミング、ネットワークなど学問領域の重複が大きいといえる。福岡工業大学は福岡市に立地し、都市部志向の学生に人気だが、本学は熊本県に位置しており、熊本県をはじめ南九州（鹿児島県、宮崎県）の学生にとって通いやすい立地であるため、進路選択時に天秤にかけられるケースがある。

一方で、本学情報学科は、AI、IoT、デバイス開発、半導体分野に至るまで、幅広い領域をカバーした実践的なカリキュラムを提供している。熊本県を中心とした地域企業や自治体との連携が強固であり、特に TSMC の進出を契機として、半導体および IT 人材育成における中核的機関としての役割が期待されている。加えて、学生一人ひとりに対する個別のキャリア支援体制を整えており、就職率も高い状況にある。

イ 競合校の入学志願動向等

<美術学科>

競合である九州産業大学芸術学部 of 過去 3 年間の入学者数および入学定員充足率は以下のとおりである。

（九州産業大学ホームページより抜粋）

年度	入学定員	入学者数	充足率
2023 年	300 名	312 名	1.04
2024 年	300 名	363 名	1.21
2025 年	300 名	289 名	0.96

直近 3 年間においては、2025 年度に定員未充足となっている。しかしながら、本学と同分野に属する芸術表現学科においては定員を充足しており、安定した志願者を確保している。一方で、本学美術学科は、少人数制による丁寧な指導や地域連携型の実践教育など、他大学にはない独自性を有しており、受験者の関心を惹きつけている。地域的なニーズと教育的な魅力の両面に支えられた安定した志願動機が見込まれ、これまでも定員充足を達成してきた実績がある。これらの点から、今後においても定員を安定的に確保できる可能性は高いと考えられる。

<情報学科>

競合である福岡工業大学情報工学部の過去 3 年間の入学者数および入学定員充足率は以下のとおりである。

(大学ポートレート私学版より抜粋)

年度	入学定員	入学者数	充足率
2023 年	375 名	423 名	1.12
2024 年	400 名	455 名	1.13
2025 年	400 名	477 名	1.19

※2024 年 4 月 情報マネジメント学科開設

入学定員 65 名（システムマネジメント学科）→90 名へ変更

福岡工業大学が情報系分野において安定した入学実績を上げていることから分かるように、九州圏では依然として情報工学・ICT 分野への進学需要が高水準で推移している。このことは、本学情報学科にとっても安定的な志願者確保の可能性を示唆している。

本学の特色として、AI・IoT・ネットワークに加え、半導体やデバイス開発といったハードウェア領域までを包括するカリキュラムを持つ点が挙げられる。特に熊本県内での半導体産業の成長と連動して、地域からの人材育成ニーズと合致している。

また、熊本県および南九州地域の学生にとって地理的・心理的に通いやすい立地にあることから、福岡市に集中する都市型大学とは異なる層へのアプローチが可能である。更に、地元企業との結びつきも強いと、地元就職志向の高い学生に対して高い魅力を持っている。これらの観点を総合すると、今後も堅実に志願者を確保し、定員を安定的に充足していく見通しである。

ウ 収容定員を変更（増加）する組織において定員を充足できる根拠等

<美術学科>

九州産業大学は、2025 年度は入学定員未充足であったものの、2019 年度以降は毎年定員を充足しており、本学美術学科と類似する分野も安定した人気を維持している。一方、本学美術学科は工学系大学に属する特性を活かし、デザインとテクノロジーの融合による独自の学びを提供している。少人数制による丁寧な指導、地域と連携した実践教育、さらに多様な入試制度と充実した進路支援体制により、多様な学生の個性と成長を支える環境が整っている。

<情報学科>

競合校である福岡工業大学は、定員が充足していることから該当なし。

エ 学生納付金の金額設定の理由

本学の学生納付金については、競合校として設定している他大学の設定金額や近年の本学財務状況等を総合的に比較検討して決定しており、今回の定員変更に伴い、学生納付金の変更はない。

③先行事例分析

該当なし。

④学生確保に関するアンケート調査

今回の収容定員変更はこれまでの志願状況などを踏まえたうえで計画しており、大学全体の入学定員の見直しを行った結果、収容定員を適正規模に変更することを目的としていることから、アンケート調査等は実施していないが、十分な学生確保が見込めるものと考えている。今回、定員の適正化を行うことにより、さらなる教育の質保証を図ることで、学生確保に繋げる計画である。

<美術学科>

美術学科は2022年度のコースの再編以降、入学定員充足率は高水準である。志願者数は競争率上昇の反動によりやや減少も見られるが、九州の芸術系大学としてのニーズは充足していると考えられ、安定した人気を集めている。学生確保に向けた取組内容については、(3)①ア「既設組織における取組とその目標」で述べたとおりであり、これまでの積極的な取組が安定的な学生の確保に繋がっている。

<情報学科>

情報学科は毎年志願者数が安定して多く、定員充足率も高い水準を保っており、高い人気を維持している。ICT人材の需要増加を背景に、今後も堅調な志願状況が続くと予測され、学生のニーズは充足していると考えられる。学生確保に向けた取組内容については、(3)①ア「既設組織における取組とその目標」で述べたとおりであり、これまでの積極的な取組が安定的な学生の確保に繋がっている。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

今回の収容定員変更はこれまでの志願状況などを踏まえたうえで計画しており、大学全体の入学定員の見直しを行った結果、収容定員を適正規模に変更することを目的としていることから、人材需要に関するアンケート調査等は実施していないが、(1)「人材需要の社会的な動向等」で述べたとおり、社会的な人材需要の動向に合致しているものと考えている。

<美術学科>

美術学科の卒業生の進路状況について、2025年3月卒業生の就職率(就職決定者/就職希望者)は85.7%であり、就職先はデザイン事務所やアニメ・ゲーム制作会社、文化財の修復会社、教員、学芸員など多岐に渡る。また、画家やイラストレーター、漫画家として全国的に活躍する卒業生も多く輩出している。社会的にもマンガ・アニメ・デジタルアート分野へ

の関心が高まり、これらに関連する文化産業において専門的人材の育成が社会的に強く求められており、社会的、地域的な需要に呼応する形で活躍している。【資料 4】

＜情報学科＞

情報学科の卒業生の進路状況について、2025 年 3 月卒業生の就職率（就職決定者/就職希望者）は 100%であり、毎年ほぼ 100%に近い就職率となっている。就職先は情報通信業が 46.6%と約半数となっている。また、熊本県においては、TSMC をはじめとする半導体関連企業の進出により、半導体関連企業への就職が増加傾向にある。電気・電子分野に加えて情報系の専門人材に対する需要が高まっており、地域的かつ国家的課題に的確に応える形で大いに貢献、活躍している。【資料 4】

（４）収容定員を変更（増加）する組織の定員設定の理由

本学では、2025 年度において 783 名の新生を迎え、大学全体の入学定員 740 名に対して約 106%という高い充足率を達成した。これは、全国の私立大学の約 6 割が定員割れの状況にある中で、極めて良好な結果である。

一方、文部科学省からは、大学が教育の質を担保するために、入学定員や収容定員の適正な管理を行うことが強く求められている。特に、学部ごとの定員充足状況については、収容定員超過が一定以上続いた場合、新設学科の認可に影響を及ぼすなど、制度上の制約が強まっている。これにより、大学としては、全体の教育体制の維持・向上を図るためにも、学部ごとのバランスある定員管理が必要となっている。

現在、本学においては情報学部および芸術学部で高い志願倍率が続き、直近では収容定員比で 1.2 倍を超える状況が続いている。一方、生物生命学部では 2024・2025 年度と 2 年連続で入学定員割れが発生しており、今後の改善が課題となっている。こうした現状を踏まえ、将来の中長期的な学部構成のあり方を見据えながら、2026 年度からの入学定員の見直しを行うものである。生物生命学部生物生命学科の入学定員を 30 名減じたうえで、情報学部情報学科の入学定員を 20 名増、芸術学部美術学科の入学定員を 10 名増とし、入学定員ならびに収容定員を適正規模に変更する。本学全体の入学定員総数 740 名の増減は伴わない変更となる。

学生の確保の見通し等を記載した書類（別添資料）

目次

資料 1	収容定員を変更する学科が置かれる都道府県の入学状況	・ ・ ・ p. 2
資料 2	入学定員の充足状況（直近 5 年間）	・ ・ ・ p. 3
資料 3	既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績	・ ・ ・ p. 4
資料 4	2024 年度 卒業生の就職状況	・ ・ ・ p. 6

～収容定員を変更する学科が置かれる都道府県の入学状況～

都道府県別 志願者および入学者一覧（過去 5 年間）

【美術学科】

県別	2021		2022		2023		2024		2025	
	志願	入学	志願	入学	志願	入学	志願	入学	志願	入学
40 福岡県	9	2	13	3	18	4	20	5	16	4
41 佐賀県	1	1	0	0	7	2	8	1	0	0
42 長崎県	3	2	14	3	5	2	7	1	8	4
43 熊本県	27	13	73	34	95	33	106	21	74	26
44 大分県	0	0	2	0	1	0	2	1	0	0
45 宮崎県	1	0	1	0	4	1	8	2	3	0
46 鹿児島県	14	0	19	5	16	3	25	2	11	2
47 沖縄県	1	0	5	0		0	1	0	0	0
その他	3	1	5	2	9	1	6	0	5	1
総計	59	19	132	47	155	46	183	33	117	37

【情報学科】

県別	2021		2022		2023		2024		2025	
	志願	入学	志願	入学	志願	入学	志願	入学	志願	入学
40 福岡県	58	10	92	17	65	10	41	7	59	14
41 佐賀県	41	5	24	5	30	5	19	0	22	4
42 長崎県	36	2	39	5	32	8	20	3	23	2
43 熊本県	560	111	452	98	505	117	540	104	501	120
44 大分県	11		22	4	33	5	12	2	13	1
45 宮崎県	71	10	66	12	48	11	44	6	54	10
46 鹿児島県	60	8	60	11	75	11	91	12	74	8
47 沖縄県	1	1	5	1	6	0	10	0	6	1
その他	51	9	16	2	30	6	44	8	25	3
総計	889	156	776	155	824	173	821	142	777	163

入学定員の充足状況（直近5年間）

学部	学 科	推 移 状 況			入学定員	
		年度	志願者数	入学者数 定員充足率		
工 学 部	機械工学科	2021 (R3)	439	77	1.10	70
		2022 (R4)	438	82	1.17	
		2023 (R5)	485	87	1.24	
		2024 (R6)	432	72	1.03	
		2025 (R7)	411	71	1.01	
	ナノサイエンス学科	2021 (R3)	290	39	0.78	50
		2022 (R4)	283	54	1.08	
		2023 (R5)	384	61	1.22	
		2024 (R6)	249	41	0.82	
		2025 (R7)	299	44	0.88	
	建築学科	2021 (R3)	495	79	1.13	70
		2022 (R4)	489	90	1.29	
		2023 (R5)	420	87	1.24	
		2024 (R6)	407	91	1.30	
		2025 (R7)	461	92	1.31	
	宇 宙 航 空 シ ス テ ム 工 学 科	2021 (R3)	480	75	0.94	80
		2022 (R4)	476	65	0.81	
		2023 (R5)	448	86	1.08	
		2024 (R6)	408	61	0.76	
		2025 (R7)	443	67	0.84	
	学 部 計	2021 (R3)	1704	270	1.00	270
		2022 (R4)	1686	291	1.08	
		2023 (R5)	1737	321	1.19	
		2024 (R6)	1496	265	0.98	
		2025 (R7)	1614	274	1.01	
情報学部	情報学科	2021 (R3)	889	156	1.20	130
		2022 (R4)	776	155	1.19	
		2023 (R5)	824	173	1.33	
		2024 (R6)	821	142	1.09	
		2025 (R7)	777	163	1.25	
	学 部 計	2021 (R3)	889	156	1.20	130
		2022 (R4)	776	155	1.19	
		2023 (R5)	824	173	1.33	
		2024 (R6)	821	142	1.09	
		2025 (R7)	777	163	1.25	
生物生命学部	生物生命学科	2021 (R3)	757	131	0.87	150
		2022 (R4)	803	179	1.19	
		2023 (R5)	703	163	1.09	
		2024 (R6)	660	133	0.89	
		2025 (R7)	596	136	0.91	
	学 部 計	2021 (R3)	757	131	0.87	150
		2022 (R4)	803	179	1.19	
		2023 (R5)	703	163	1.09	
		2024 (R6)	660	133	0.89	
		2025 (R7)	596	136	0.91	
芸術学部	美術学科	2021 (R3)	59	19	0.63	30
		2022 (R4)	132	47	1.57	
		2023 (R5)	155	46	1.53	
		2024 (R6)	183	33	1.10	
		2025 (R7)	117	37	1.23	
	デザイン学科	2021 (R3)	185	49	1.23	40
		2022 (R4)	145	37	0.93	
		2023 (R5)	165	44	1.10	
		2024 (R6)	178	49	1.23	
		2025 (R7)	157	47	1.18	
	学 部 計	2021 (R3)	244	68	0.97	70
		2022 (R4)	277	84	1.20	
		2023 (R5)	320	90	1.29	
		2024 (R6)	361	82	1.17	
		2025 (R7)	274	84	1.20	
薬学部	薬学科	2021 (R3)	1105	133	1.11	120
		2022 (R4)	1027	140	1.17	
		2023 (R5)	1053	124	1.03	
		2024 (R6)	982	129	1.08	
		2025 (R7)	1203	126	1.05	
	学 部 計	2021 (R3)	1105	133	1.11	120
		2022 (R4)	1027	140	1.17	
		2023 (R5)	1053	124	1.03	
		2024 (R6)	982	129	1.08	
		2025 (R7)	1203	126	1.05	
総 合 計		2021 (R3)	4699	758	1.02	740
		2022 (R4)	4569	849	1.15	
		2023 (R5)	4637	871	1.18	
		2024 (R6)	4320	751	1.01	
		2025 (R7)	4464	783	1.06	

※生物生命学科は2022(R4)年度に改組。2021(R3)年度は旧・応用微生物工学科と応用生命科学学科の合計人数

既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績

【美術学科】

志願者数増加施策

分野	施策内容
地域戦略 広報活動	鹿児島県・宮崎県・沖縄県を重点ターゲットに設定。 福岡県については特に南部を重点化。
高大連携	高校訪問強化／出張講義／連携協定校の増／DX ハイスクールの積極的支援／大学訪問（高校生・保護者・教員）の充実。 九州各県に入試アドバイザーを配置し、高大の連携を強化、適時生のある情報の提供に努める。
SNS 展開	芸術学部独自のインスタグラムを通して日常の様子を積極的に発信
外部イベント参加	芸術系進学ガイダンス（福岡、熊本、宮崎、沖縄）に参加し、地元の芸術系大学としての存在感を強化。

PR 活動の過去の実績(芸術学部)	2023 年	2024 年
オープンキャンパス 来場者数	521 名	541 名
出張講義	6 校（太宰府、大牟田、佐賀女子×2、創成館、波佐見）に対して 10 名の教員が対応	8 校（太宰府、佐賀女子×2、純心女子、創成館、大津×2、大分豊府中学）に対して 17 名の教員が対応。
大学訪問	5 校（高森、岱志、必由館、熊本西、明光学園中学）	6 校（島原、高森、岱志、鎮西、玉名女子、熊本西）

【情報学科】

志願者数増加施策

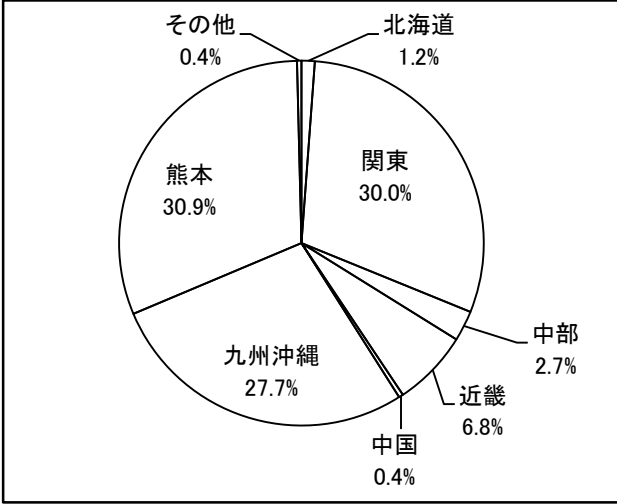
分野	施策内容
地域戦略 広報活動	鹿児島県・宮崎県・沖縄県を重点ターゲットに設定。 福岡県については特に南部を重点化。
高大連携	高校訪問強化／出張講義／連携協定校の増/DX ハイスクールの積極的支援／大学訪問（高校生・保護者・教員）の充実。 九州各県に入試アドバイザーを配置し、高大の連携を強化、適時生のある情報の提供に努める。
研究紹介	5名の教員が高校生向けに講義している夢ナビ講義 VIDEO をホームページで公開
育成プログラムの展開	次世代女子育成プログラムの新設と展開による教育の質向上

PR 活動の過去の実績	2023 年	2024 年
オープンキャンパス来場者数	1,170 名	1,339 名
出張講義回数	7 校（熊本西×3、八代東、玉名工業、小林、鹿屋）	8 校（柳川、佐賀清和、熊本西×2、八代工業、大津、城北、川内）
大学訪問	5 校（佐賀工業、東稜、千原台、岱志、八代工業）	11 校（文徳×4、玉名工業、八代東、八代工業、熊本工業、水俣、加治木、川内）

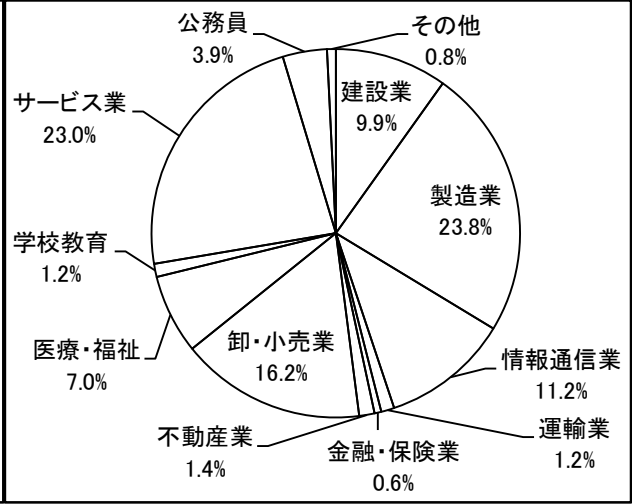
2024年度 卒業生の就職状況（2025年5月2日現在）

全体卒業生数 657名
全体就職率 97.2%（就職者517名 就職希望532名）

地区別就職状況



業種別就職状況



就職・進学状況および地区別就職状況（学科別）

学科名	就職率	就職者	就職希望者	進学者	北海道	関東	中部	近畿	中国	九州沖縄	熊本	その他
機械工学科	100.0%	61	61	10	0.0%	21.3%	3.3%	11.5%	0.0%	27.9%	36.1%	0.0%
ナノサイエンス学科	96.8%	30	31	5	0.0%	23.3%	0.0%	6.7%	0.0%	33.3%	36.7%	0.0%
建築学科	97.9%	47	48	4	0.0%	38.3%	6.4%	17.0%	0.0%	21.3%	17.0%	0.0%
宇宙航空システム工学科 （宇宙航空システム専攻）	100.0%	25	25	1	4.0%	56.0%	12.0%	4.0%	0.0%	12.0%	8.0%	4.0%
宇宙航空システム工学科 （航空整備学専攻）	100.0%	20	20	0	5.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	5.0%	0.0%
宇宙航空システム工学科 （航空操縦学専攻）	—	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—
美術学科	85.7%	6	7	2	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
デザイン学科	71.0%	22	31	0	0.0%	27.3%	4.5%	4.5%	0.0%	22.7%	40.9%	0.0%
情報学科	100.0%	116	116	17	0.0%	33.6%	2.6%	5.2%	0.9%	15.5%	42.2%	0.0%
応用微生物工学科	100.0%	36	36	7	0.0%	19.4%	0.0%	2.8%	0.0%	41.7%	36.1%	0.0%
応用生命科学学科	94.3%	50	53	17	0.0%	28.0%	4.0%	14.0%	0.0%	24.0%	28.0%	2.0%
薬学科	100.0%	104	104	0	3.8%	17.3%	0.0%	1.9%	1.0%	49.0%	26.9%	0.0%

業種別就職状況（学科別）

学科名	建設業	製造業	情報通信業	運輸業	金融業	不動産業	卸・小売業	医療・福祉	学校教育	サービス業	公務員	その他
機械工学科	13.1%	52.5%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	3.3%	23.0%	3.3%	0.0%
ナノサイエンス学科	6.7%	56.7%	3.3%	0.0%	3.3%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	13.3%	10.0%	0.0%
建築学科	66.0%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	10.6%	4.3%	0.0%	0.0%	6.4%	8.5%	0.0%
宇宙航空システム工学科 （宇宙航空システム専攻）	4.0%	20.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	68.0%	0.0%	4.0%
宇宙航空システム工学科 （航空整備学専攻）	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	80.0%	0.0%	0.0%
宇宙航空システム工学科 （航空操縦学専攻）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美術学科	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	66.7%	0.0%	0.0%
デザイン学科	9.1%	13.6%	13.6%	0.0%	4.5%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
情報学科	4.3%	21.6%	46.6%	0.0%	0.0%	0.9%	3.4%	0.0%	0.0%	20.7%	2.6%	0.0%
応用微生物工学科	5.6%	52.8%	0.0%	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	30.6%	0.0%	2.8%
応用生命科学学科	0.0%	36.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	18.0%	10.0%	2.0%	24.0%	4.0%	4.0%
薬学科	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	59.6%	29.8%	0.0%	2.9%	5.8%	0.0%

※%を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計値等が一致しないまたは100%をこえる場合がある。